

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2009.07
【第7号】

これはHTML形式
のMAILです。
オンラインで無い場合
は画像が表示され
ない可能性があります。

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。
今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

INDEX

1. 東京都都市整備局よりふるさと晃荘の視察
2. 精神保健指導過程「精神保健医療福祉の改革」にて講演
3. 「市民パワーと民主党の懇談会」にて支援付き住宅の制度化を政策提言
4. センター「すみだ」隅田川花火大会
5. イベント報告「本所防災館見学」

1. 東京都都市整備局よりふるさと晃荘の視察

去る7月7日、5月に新たに開設した自立援助ホーム「ふるさと晃荘」に東京都都市整備局の方々が東京都の「少子高齢化にふさわしい新たな『住まい』実現プロジェクト」に伴い、高齢者の住宅問題に取り組むという目的で当法人の「ふるさと晃荘」に着目し、見学に来られました。

「ふるさと晃荘」は高齢低所得者向けの自立援助ホームで、社会的入院を余儀なくされた中軽度の要介護高齢者の方々を中心に24時間職員が見守る中で、社会サービスをコーディネートし訪問介護等のサービスの提供を通し日常生活・社会生活の生活支援を提供する施設です。

約2時間、本部でディスカッションの後「ふるさと晃荘」に見学に行きました。

ディスカッションではふるさとの会の事業概要、「ふるさと晃荘」の利用者ニーズの説明に始まり、民間資本を活用した自立援助ホームの話を中心に活発な意見が交わされました。晃荘は、現在のアパート問題でもある老朽化による空室に困っていたオーナー、相談に乗っていた不動産業者及び住宅メーカーとふるさとの会が一体となって協議し、オーナー出資で当法人の意向に沿う形での施設の建築、それに伴い建物一棟の賃貸契約の締結といったオーナー及び賃借人である当法人の両者にとっても利益になるスキームのもと開設された施設であります。

この経緯を説明すると来訪者の方々には大変興味を持って頂き、資金繰り・利潤・地域との関連性など沢山の質問がありました。またこのスキームを制度化出来ないか？との提案もあり、今後晃荘のスキームが大きな住宅問題の解決策になり、このシステムをどうすれば広げることが出来るのかツールの議論にまで発展しました。また当法人の代表理事から都営住宅における支援のスキームの提案もあり、それについても活発な議論がなされ充実した時間を過ごしました。今後、「ふるさと晃荘」のようなスキームによる施設が、支援を必要としている方々の地域に多数開設出来れば、地方の施設に行かされることもなく、地元で安心した支援を受けられるようになると思います。またそのような支援をすることが、ふるさとの会のミッションの1つでもあると考えます。

(滝澤 健一郎)



高齢者を地域で支える新しい取り組みについて活発な議論



2. 精神保健指導過程「精神保健医療福祉の改革」にて講演

去る7月1日、国立精神・神経センターにて「第46回精神保健指導過程」開催され、ふるさとの会水田恵理事が、東京保護観察所の八木真佐彦氏と百合丘地域生活支援センターの三橋良子氏とともに「精神保健医療福祉の改革」と題した講義を都道府県の精神保健福祉担当部署において精神保健福祉行政に携わっている方たちを対象に行いました。

その中で水田理事は地域とともに生活困窮者を支援するというふるさとの会の事業内容。ふるさとの会が行う生活困窮者の自立支援事業をまちづくり・地域再生につなげる企画。またふるさとの会が考える対人援助について報告を行いました。

また水田理事は、「路上生活者は極貧の生活を講習の面前でさらしているため、心にバリアをはりながらきている」「地域のネットワークにより支援対象者を支援していき、常に支援対象者が主役であることを忘れてはいけない」ということを強く訴えていました。

現在私が配属されている施設にも、路上生活等や事故により心に傷を持っている利用者が多くいるため、その利用者が安定した生活を地域で送っていくための環境をどうやって作ってあげればよいか改めて考えさせられました。(望月拓馬)



精神保健に従事する参加者の前で、言葉にも熱がこもる

3.「市民パワーと民主党の懇談会」にて支援付き住宅の制度化を政策提言

去る7月14日、NPO法人事業サポートセンター、同シーズ・市民活動を支える制度をつくる会、同市民フォーラム21・NPOセンター、同日本NPOセンターの4団体が呼び掛けとなり、民主党本部にて、「市民パワーと民主党の懇談会」と題した意見交換会が開催されました。民主党に政策提言をするNPOの7団体のひとつにふるさとの会が選ばれ、当会の佐久間理事長が福祉分野の提言者として登壇いたしました。群馬県渋川市の静養ホーム「たまゆら」の火災によって表面化された高齢要介護困窮者の地域における住まいの確保という課題に対して、「支援付き住宅」の制度化を提言。民主党から出席された直嶋正行民主党政調調査会長・長妻昭政策調査会長代理他、多くの議員が熱心に耳を傾けてくださいました。持ち時間5分という限られた条件のなかではありましたが、貴重な機会をいただいたことに感謝いたします。(古木大介)

<http://www.dpj.or.jp/news/?num=16542&mm=print> (民主党HP)



会場は立ち見も出るほどの大盛況



政調会長にむけて兎荘の事業スキームを説明

4.センター「すみだ」隅田川花火大会

7月25日 東京の夏の風物詩、隅田川花火大会が開催されました。「ふるさとの会」でも各所で恒例の花火見物が行われました。会場の一つとなった「地域生活支援センターすみだ」には40数名の方々が参加され、前日からスタッフが用意した飲み物やおつまみ、おにぎり等を頂きながら打ち上げの時を待ちました。午後7時、打ち上げが始まると屋外に用意された縁台に並んで腰掛け思い思いに夏の夜のひとときを堪能されました。目の前に迫ってくるような花火の大輪と響き互る打ち上げ音に、思わず感嘆の声が上がったり我を忘れて魅入ってしまうなど予想以上の素晴らしさを皆さん存分に楽しみました。この夜、空を見上げる人々との一体感のなかで“日本の夏”を味わう喜びを皆で共にすることができました。

(坂本陽子)



夜空に打ち上がる大輪の花火を堪能する参加者の皆さん

5. イベント報告「本所防災館見学」

地域生活支援センター「すみだ」では、毎月イベントを開催しています。今回は社会科見学として5/30(土)に本所防災館の見学会を行いました。移行支援事業利用者3名・墨田区元ホームレス居宅安定化事業利用者3名・GH利用者1名の計7名が参加しました。約2時間の見学でしたが、実習がメインでしたのであつという間に過ぎていった感じがしました。実習内容は3Dシアター→消火体験→暴風雨体験→煙体験→応急体験(人工呼吸・AED操作)と盛りだくさんの内容で、模擬災害を体験しながら、いざという時にどう行動すべきか学ぶことができました。

参加者の中には「新聞で読んだ記事で、応急処置の必要性を感じたため参加した」という意識の高い方も、「楽しそうだから」とテーマパーク感覚で気軽に参加された方もいて、参加理由は様々でしたが、最後は全員が満足し、有意義な時間を過ごすことが出来たと思います。

今回参加していただいた方たちには次回イベントへも参加を促したいと思います。

(館野 毅)



講師の説明を聞く表情は真剣そのもの。



一斉に消火器を発射！



参加者全員で「はい、ポーズ」

発行元：特定非営利活動法人 自立支援センターふるさと

〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6

TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950

E-mail: hurusato@d5.dion.ne.jp

HTML: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>